

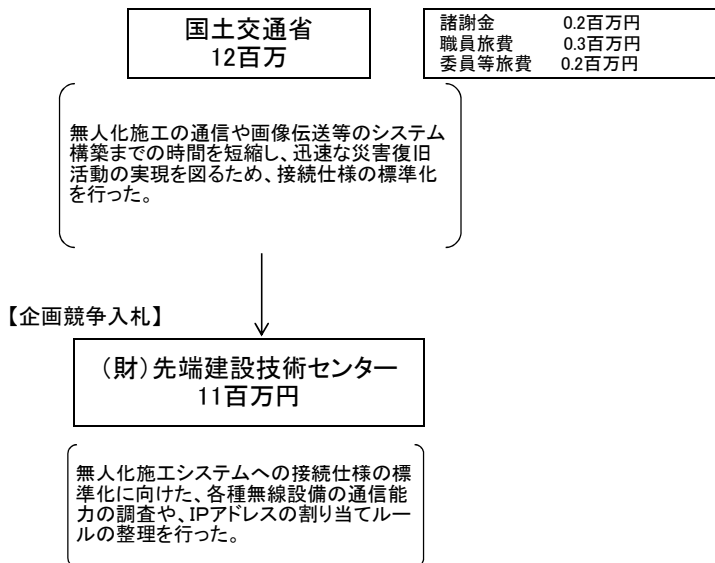
平成25年行政事業レビューシート

(国土交通省)

事業名	大規模災害に迅速に対応可能な無人化施工技術の推進		担当部局庁	総合政策局	作成責任者				
事業開始・終了(予定)年度	平成24年度		担当課室	公共事業企画調整課	課長 安藤 淳				
会計区分	一般会計		政策・施策名	4 水害等災害による被害の軽減 12 水害・土砂災害の防止・減災を推進する					
根拠法令 (具体的な条項も記載)	-		関係する計画、通知等	-					
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	近年、集中豪雨や地震等に伴う土石流、地すべり、がけ崩れ等の土砂災害が年平均で約1,000件以上発生しており、多大な被害が発生している。二次災害の危険性から有人施工が困難な現場において、安全確保に極めて有効な手段となる無人化施工技術を活用する際に、国が保有する機械のみならず、民間が保有の機械も有効活用することで、効率的な復旧活動を実現するものである。								
事業概要 (5行程度以内。別添可)	災害時に、遠隔操作式建設機械を迅速に災害現場に集めて稼働させるためには無線通信の混信を防ぐ調整が必要である。本事業は、国が保有する無線通信や映像伝送等のシステムに、国や民間保有の遠隔操作式建設機械が即時接続できるように接続仕様(インターフェース)の標準化を行ったものである。これにより、民保有の機械も無人化施工システムに有効活用することで、効率的な復旧活動の実現に資するものである。								
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託・請負 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> 交付 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他								
予算額・執行額 (単位:百万円)	予算 の 状 況	当初予算	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度要求		
		補正予算	-	-	12	-	-		
		繰越し等	-	-	0	-	-		
		計	-	-	12	-	-		
	執行額	-	-	12	-	-			
	執行率(%)	-	-	99%	-	-			
成果目標及び成果実績 (アウトカム)	成果指標			単位	22年度	23年度	24年度	目標値 (年度)	
	接続仕様(インターフェース)の標準化(案)の周知			成果実績	%	-	-	100	-
				達成度	%	-	-	100	-
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標			単位	22年度	23年度	24年度	25年度活動見込	
	接続仕様(インターフェース)の標準化(案)の作成			活動実績 (当初見込み)		-	-	100	-
単位当たりコスト	-			算出根拠	-				
平成25・26年度予算内訳	費目	25年度当初予算	26年度要求	主な増減理由					
	計	-	-						

事業所管部局による点検					
	項目		評価	評価に関する説明	
国費投入の必要性	広く国民のニーズがあるか。国費を投入しなければ事業目的が達成できないのか。		○	無人化施工技術の接続仕様の標準化は、災害復旧工事の迅速化に極めて有効な手段となるため、国が実施すべき重要な事業である。	
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。		○		
	明確な政策目的(成果目標)の達成手段として位置付けられ、優先度の高い事業となっているか。		○		
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。		○	事業目的に沿って予算を執行しており、その執行状況を適切に把握している。 入札及び契約内容の妥当性については、第三者機関である企画競争有識者委員会により審議されている。	
	受益者との負担関係は妥当であるか。		-		
	単位当たりコストの水準は妥当か。		-		
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。		-		
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		○		
	不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)		-		
事業の有効性	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。		○	当該年度で予定していた接続仕様(インターフェース)の標準化(案)を作成し、順調に進捗している。	
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。		○		
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。		○		
重複排除	類似の事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)		-		
	事業番号	類似事業名	所管府省・部局名		
点検結果	大規模災害により甚大な被害を受けた被災地には早期復旧が必要であることから、無人化施工機械の活用により迅速な災害復旧を実現させる本事業の緊急性は高いと認められる。また、事業の代替案として、官で機械を保有して迅速に復旧活動を実現する方策があるが、本事業の方が民保有の機械を有効活用することで、より効率的に目的を実現することができるという。なお、本事業は、道路や河川などの社会資本の災害復旧事業の迅速化に資するものであることから、国土交通省の任務である。				
外部有識者の所見					
行政事業レビュー推進チームの所見					
所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況					
備考					
関連する過去のレビューシートの事業番号					
	平成22年		平成23年		平成24年
					1001

※平成24年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。



資金の流れ  
(資金の受け取り先が何を  
しているかにつ  
いて補足する)  
(単位: 百万  
円)

**費目・使途**  
 (「資金の流れ」に  
 おいてブロックご  
 とに最大の金額  
 が支出されている  
 者について記載  
 する。費目と使途  
 の双方で実情が  
 分かるように記  
 載)

A.			E.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
人件費	業務担当者人件費等	10.92			
計		10.92	計		0
B.			F.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計		0	計		0
C.			G.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計		0	計		0
D.			H.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計		0	計		0

支出先上位10者リスト

A.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	(財)先端建設技術センター	無人化施工の通信や画像伝送等のシステム構築までの時間を短縮し、迅速な災害復旧活動の実現を図るため、システムの接続仕様(インタフェース)の標準化を行うとともに、画像機器等の性能検討を行った。	10.92	1	99.33%
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

B.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					